

「ウダ」という地名

『古事記』、『日本書紀』、『万葉集』には、「ウダ」という地名が多く登場します。古代の「ウダ」は現在の宇陀市・宇陀郡の大部分を占めていました。漢字では、宇陀・菟田・宇陀・宇太・于太・宇多・于施・于囊・宇田などと様々です。「ウダ」の語源については、諸説があります。「ウタ(大田)」で「広い台地」という意味、「アタ(阿田・阿多・阿施)」で「農耕に適した地域」という意味などと考えられています。いずれにしても、土地に関係した事柄が「ウダ」の語源のようです。

「宇陀郡」は、飛鳥時代からみえる郡名で、大和国十五郡のひとつです。菟田県(うだのあがた)をその前身としています。

『続日本紀(しよくにほんぎ)』では、慶雲二年(七〇五)に八咫鳥社を「大倭国(大和国)宇太郡」に置き、これを祀ったとあります。八咫鳥神社のはじまりが、記録されています。和銅六年(七一三)には、「大倭国宇太郡波坂郷の人、大初位上村君東人、銅鐸を長岡野の地に得て献る。高さ三尺、口径一尺。(以下略)」とあります。大きな銅鐸が「大倭国宇太郡波坂郷の長岡野」で見つかったのです。日本最初の



空から見た「宇陀」

銅鐸発見の記録ですが、残念ながら「波坂郷」や「長岡野」の場所は、特定できていません。また、平城宮から出土している木簡のなかにも「宇太郡」と書かれたものもあります。明治時代には、郡区町村編制法により近代の郡として改めて発足します。当時の所属町村は、松山町と榛原・神戸・政始・伊那佐・内牧・宇太・宇賀志・室生・三本松・曾爾・御杖の各村でした。このように宇太郡(宇陀郡)の記録は、古くからあり、今の郡名や市名につながっています。

文・柳澤一宏(文化財課)



一年の計は元旦にあり

明けましておめでとう
ございます。

元旦の「元」は、初めの意。元旦の「旦」は、日が「太陽」、その下の横棒が「地平線」を表し、地平線から見える日の出や朝を意味し、元旦とは、年の「最初の朝」という意味になります。年の初めに、前の年を無事に過ごせたことに感謝し、家族や自身の「健康」を祈念する方も多いのではないのでしょうか。

太古から、人は健康や長寿を求めてきました。これだけ物があふれ、便利になった今日でも、人が健康であり続けることは、容易ではないと言われています。では、私達は、健康でいるにはどうすればいいのでしょうか。意外に「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」こんな一見単純なことが、人間にとつて必要不可欠で大切なのだそうです。

また、体を動かしたり、本を読んで、自らの健康を見つめ直し、元気を取り戻そうと努力していく上で、大切なことです。

市では、「健幸(けんこう)」をまちづくりの基本に据え、健康・長寿の市を実現するため、身体面の健康だけでなく、生きがいを感じ、安心して豊かな生活を送れるまちを目指し、市民の誰もが健康で幸せと思えるまち「健幸都市ウエルネスシティ宇陀市」の推進に取り組んでいます。

「一日の計は朝にあり。一年の計は元旦にあり」と言います。「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」ことを心がけ、規則正しいリズムで生活することは、気持ちの前向きになり、心身が健康になるだけでなく、自尊心が高まることで、かけがえない存在として、自分も他人も大切にし、絆を深めたり、あたたかい家庭や良好な人間関係を築いていく上でも、重要です。今年、そんな素敵な年にしませんか。

